

春風秋霜

3月号

令和6年3月18日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

【2月議会について】

2月14日に市議会2月定例議会の本会議が開かれ、2月議会が始まりました。3月6日から8日まで、一般質問が行われましたので、教育に関わる内容について、お知らせしたいと思います（紙面の関係で、詳細は書けませんので通告に従って出されたご質問に対して答弁した内容をお知らせいたします）。

6日(水)は、創造島田の清水議員から「静岡県立ふじのくに国際高等学校」の概要と連携についてご質問がありました。「令和6年4月から開校する単位制高校であり、3部制の時間割を選ぶことができること」、「今後、探究的な学びについて研修を深め、連携していきたいということ」をお答えしました。

8日(金)は、山本議員から、『中学校部活動の今後の計画について』「①令和4年度、5年度に新たな地域クラブ設置に向けて何を行ったのか、今までの経緯について。②これからの組織をどのように考えるのか。③最も高いハードルは何か。④令和9年度までに、年度ごとに何をやっていくのか。」というご質問が出されました。これについては、「①令和4年度に、島田市地域部活動連絡協議会準備会を開催し、部活動の地域移行の方法や中学生の受け入れ方式をテーマに意見交換を行ったこと。5年度には、島田市新たな地域クラブ連絡協議会を設置し、代表会議と専門会議をそれぞれ2回ずつ開催したこと。小学校5年生・6年生とその保護者、中学1年生・2年生とその保護者、小中学校教員を対象にアンケート調査を行ったこと。②今後の新たな地域クラブ活動の設置に向けて、実施主体をどうするか、運営や指導等の人材確保をどうするかを検討していく必要があり、当面の間、事務局である学校教育課を中心に、スポーツ振興課と文化振興課が連携しながら進めていくこと。③現在のハードルとしては、休日の学校部活動を実施するにあたって、受け皿となる地域クラブ活動の運営団体や指導者の確保が最大の課題であること。④今後、現在ある学校部活動の種目ごとに、各種団体の代表者、中学校管理職、中学校教員代表者で休日における地域クラブ活動の設置に向けた協議を行うこと。また、静岡新聞にも載りましたが、令和7年度以降、各種目別の話し合いで出された課題について、個別具体的に対応していくことにより、準備ができたところから休日の地域クラブを設置していくことを考えている。」等をお答えしました。中学生が将来に希望を持てるような、そして、持続可能な休日の地域クラブになるように考えていきたいと思っています。

桜井議員から、『不登校の子供への支援について』「①市内の不登校の児童生徒数の推移や、その原因について。②校内の別室登校を含めて登校支援をどのような体制で行っているのか。③スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携の様子、校外のフリースクールなど他機関との対応。④今回新規事業として出された学びの多様な学校の調査研究とは何か」というようなご質問がありました。これについては、「①平成30年度から令和4年度の不登校児童生徒数を挙げて、年々増加

しているということ。その原因は多岐にわたり、複合する場合や原因の特定が困難な場合もあること。学校では、本人に係る原因として「学校における人間関係」「遊び・非行」「無気力」「不安」などを挙げていること、学校や家庭に係る原因として「いじめ」「いじめを除く友人関係」「教職員との関係」「学業不振」「進路に係る不安」「クラブ活動、部活動への不適応」「学校の決まり等をめぐる問題」「入学、転編入学、進級時の不適応」「家庭に係る状況」を挙げていること。②学校では、不登校の児童生徒の学びの場として、校内の別室を整備していること、教育センターのチャレンジ教室における学習支援等の状況について③スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携しており、教職員も一緒に研修を行っていること。また、他機関との連携の例として「もみの木学級」があること。④今後、島田市においても不登校の児童生徒に様々な学びの場を提供できるように、今後調査研究をしていく。」ということをお答えしました。多くの子供たちに、居場所ができるようにしたいと考えています。

「学びの多様化学校」とは令和5年8月まで「不登校特例校」と文部科学が呼んでいたものです。不登校の子供たちにとって多様な学びの場となるようにということで、「学びの多様化学校」と名称を変えたものです。

肘かけ椅子

「活用させていただきました」

教育総務課長 鈴木 龍彦

心待ちにしていた桜の花が優雅に舞っています。冬の寒さを乗り越えたかのような彼らの力強さに、私たちは新たな元気をもらっています。彼らから学ぶことは数多くありますが、何よりその美しくも儂い存在が、私たちに大切なことを教えてくれます。

新たな年度が始まることは、新たなチャレンジが始まることを意味します。無数に存在する可能性に対するワクワク感を忘れずに、目の前の一步一步を確かに踏み出していきましょう。新年度に向けて、桜の花が儂く散っていく様を見つつ、その生命力と美しさ、そして一期一会の心を忘れずに、私たちはまた歩み始めるのです。日々はけっして繰り返しではなく、一度きりの特別なもの。だからこそ、私たちは新たな日々感謝しながら、前を向くことができます。

来年度も、皆さんと共に新たな一步を踏み出せることを心から楽しみにしています。あたたかい春の日差しと、優雅に舞う桜の花びらの下で、また新たな物語が始まるのです。

一応、雰囲気のある文章となりました。「①時期は3月末、②桜、③感謝、④来年度に向けて、の4点を踏まえて元気が出るような文章を」と ChatGPT にお願ひしたもので、1分程度で上記のとおりです。

時代の進化に感激するとともに、気付かないうちに退化していくものがあるのではと、一抹の不安がよぎりました。